

中海自然再生事業実施計画 第3期実施計画 概要

実施者

認定NPO法人自然再生センター

協議会

中海自然再生協議会

実施概要

「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に、豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築するため、「海藻類の回収及びその利用事業」及び「浚渫窪地の環境修復事業」の2つの事業を実施する。

◆ 自然再生の対象となる区域

中海のうち、沿岸の水深2m程度までの水域及び2箇所の浚渫窪地



- ◀ 左図は中海自然再生全体構想の対象区域である、境水道を含む中海本体（86.8km²）と大橋川を除く中海に直接流入する河川的全集水域（595km²）を示す。
- ◀ このうち、本実施計画では、上記区域を対象としている。

目標・効果

- 海藻類の回収及びその利用事業
 - ・ 海藻類の回収及び農業への活用
 - ・ 海藻類の役割（供給、生息場所、調整、文化等）の評価
 - 浚渫窪地の環境修復事業
 - ・ 各浚渫窪地の状況に合わせた覆砂の検討・実施
 - ・ 覆砂による生態系修復効果の検証や水質シミュレーションによる評価等
- ※ その他、地域の多様な主体の参加と連携や広報活動、環境学習の推進にも取り組む。

◆ 本計画のポイント

- ・ 2011年から海藻類の回収及び農業への活用が行われ、循環システムは既に構築されつつある。一方で、海藻類の刈り取りによる魚類や底生生物への影響は明らかにはなっていないため、第3期実施計画では、海藻類の役割の評価に向けて、藻刈りの効果の分析・評価や、藻刈りの実施手法の検討に取り組む。
- ・ 浚渫窪地は、ヘドロが溜まり、貧酸素水や硫化水素の発生源となっているため、第1期及び第2期実施計画で「石炭灰造粒物」を用いた全面覆砂や山型覆砂による実証実験が行われている。これらの結果を踏まえ、第3期実施計画では、山頂の面積が大きい山型覆砂を実施するほか、完全埋戻しによる環境修復効果を検証する。また、水質シミュレーションにより、埋め戻しによる中海全域（または米子湾）の貧酸素水塊の発生等に与える影響を評価し、中海本来の自然再生実現のために効率的な埋め戻し方法を検討する。